

# 筆山

第47号 / 2009年12月

## 土佐中・高等学校同窓会 関東支部会報

編集人/西岡 恒憲 (41回)

編集室：〒106-0032 港区六本木3-16-12-7F 六本木司法書士合同事務所気付 編集委員 鶴和千秋 (41回)

TEL 03-3587-6200 FAX 03-3587-6201 E-mail:tsuruwa-office@rsg.gr.jp

関東支部ホームページ：http://www.tosako-kanto.org/



東京開成学校跡地の学士会館敷地内にある「我が国の大学発祥地」の碑と「日本野球発祥の地」の碑【編集部撮影】

## 東大と野球 38回生 片山直久

日本に野球がもたらされたのは、明治5年(1872年)神田錦町にあった東大の前身である東京開成学校の敷地で、アメリカ人英語教師ホレス・ウィルソン氏が牧野伸頭ら学生にベースボールを教えたことからといわれる(本年野球殿堂入りされた故君島一郎氏著「日本野球創世記」より)。

ウィルソン氏の野球殿堂入りを記念して平成15年12月、発祥地である開成学校跡地の現在の学士会館の道路沿いに上記写真の記念碑が建立された。その手のモデルは当時の東大野球部主将である。歴史的には日本の野球は東大から始まったと言えるのではないかと。

東大野球部は1919年に正式に創部された。今年がちょうど90年。100年史作成の準備をしておこうと90年史のまとめをしており、来年3月には完成する予定だ。東大は創部後1925年六大学野球に絶対脱退しないことを条件に加盟した。戦績は大きく負け越しており戦後2位だったのが最高位であるがその存在意義は発揮していると思う。

私は5年前前任の新治伸治氏(東大卒初のプロ野球選手)の逝去を受け野球部OB会(一誠会)の会長を引き継いだ。その際、たとえ入学試験というハードルがあっても積極的にスカウト活動をして選手を集めなければ甲子園組の多い他5大学には勝てない。勝って優勝という夢物語を100周年記念まで何と実現するためには、打って出ることが必要だとOB会の中にスカウト担当幹事を設けたわけである。これまでもOB・現役の努力で勧誘や夏の練習会を継続して実行しているが、今年は初めて7名の高校生を全国から募集し夏季講習合宿を2週間実施、受験勉強までも教えるシステムを立ち上げた。来春の成果次第でスカウト活動に弾みがかかるであろうと期待している。

本郷の野球部合宿所には一誠寮と書かれた額縁がある。これは寮建設当時の総長与又郎先生が寄贈されたものであるが「誠」の字には「ノ」が入っていない。六大学で優勝した時記入せよとの総長の言である。その一つの節目が10年後にくるわけだ。

夢と言われようがまた不可能と言われようがどうしても実現したいと思うのは私だけではない。したがってスカウト活動の私の目はどうしても母校土佐高校に向かう。

わが母校土佐高校は文武両道の錦旗を掲げ進学、部活(運動)にがんばっている。そして野球部は毎年毎年甲子園出場を期待されているのだが、出場すれば高知ももつと元気が出ようし、さらには教育を通じた地域活性にもつながるのではないかと。

伝統ある土佐高野球部。OBの一人としては、ぜひ後輩球児がさらなる文武両道を目指して東大野球部に入部してほしい。そして東大野球部一誠寮の額縁「誠」の字に「ノ」を入れて私の思いをぜひ実現してもらいたい。

〈東大野球部OB会会長〉

# 関東支部 学生・若手社会人交流会 in 2009 角 陽一郎 (72 回生)

日が沈む頃にはすっかり冬の空気を感じるようになった11月7日(土)、東大駒場キャンパスにて、約80名の土佐校卒業生が集い、「学生・若手社会人交流会 IN 2009」が開催された。尾崎知事に、ご参加頂き大変好評を博した昨年引き続き、今年も卒業生有志によるスピーチとパネルディスカッション並びに懇親パーティが行われた。

この構成となつて2回目の今年も、卒業生の中から大変興味深い方々がスピーチとして登壇された。まずメインスピーカーとして、富士重工業株式会社で2006年より代表取締役社長を務める41回生の森郁夫さん。就任以来次々と重要懸案の判断を下し、その手腕に注目の集まる経営者ながら、自ら「私はカリスマ社長ではない」、「社長になれたのは身長と声のかさと運だけ」などと謙遜される。しかし、ものづくりを志しての入社、工場勤務から、海外赴任の貴重な体験、自ら望んで進んだ営業の道、そして社長の仕事内容まで、平易な言葉で分かりやすく振り返りつつ、これから社会を歩む若手に大切な心構えや、ご自身

が尊敬されるメンターの言葉を織り込みつつお話しされる姿に、厳しい自動車業界の荒波の中で地を足をつけ経営に奮闘される、深い落ち着きと覚悟のようなものを感じたのは私だけではないだろう。

最後に森さんから若手に向けて贈る言葉があつたのだが、ご自身のこれまでの信念を表すものであった。「現場第一」、「主体性を持って」、「斜に構えるな」、「泥をかぶれ」、「あきらめるな」、「ベンチマークを持って」、「仕事は1人ではできない」。これから社会に出る学生だけでなく、すでに社会で奮闘している人達も、誰もが各々胸に手をあてて聞いたことだろう。付け加えると、海外赴任ではその経験の深さに圧倒的な差があるので、単身ではなくぜひ家族で、という実感がこもつた言葉も印象的であつた。

続いて、森さんに加えて、55回生の小松弘明さん、76回生の長谷至誠さん、司会の69回生の武市昌広さんが、「世界と向き合う土佐人たち」をテーマに、パネルディスカッションを行った。小松さんは、銀行員時代から数多くのコンサルを手掛け、

中国人企業家、宋洲氏とともにソフト・ブレイン株式会社を5年で東証一部に上場させ、現在ソフトブレイン・サービ

ス社会長である。長谷さんは、国際公務員に憧れ米国の大学に飛び込み、そこで見つけた、「海外都市開発プロジェクト参画」という目標を胸に、国内都市開発の旗手、森ビル株式会社に勤務している。

社に勤務している。

マイクロソフトでグローバルなビジネスを体感されている司会の武市さんからは、3人の個性を引き出す質問が次々と繰り出された。

三者三様ながら、それぞれ海外との繋がりを密に一線級で働く彼らだからこそその思いやメッセージを聞くことができた。3人が共通で口にしたのは、「行動」の大切さであつたと思う。中でも、日本だけに閉じこもらず世界の中に立つ位置を感じる重要性について、これはもはや待ったなしの現実だと感じるエピソードが多かつた。

もちろんそれでも土佐人として高知へ何らかの貢献をしたいという思いはある。時代を超えた「脱藩浪士」たちは、熱い郷土愛も忘れ

ず胸に抱いていた。

それにしても、あらためて土佐校は、人材の宝庫だと実感する。これだけ分野や、年齢、経験の違う3人が、同じ母校という共通項のもと、リラックスした雰囲気の中で語る仕事や人生についての生身の発言。そして懇親パーティで酒を酌み交わしながらの活発な談議。これが学生や若手社会人の刺激にならないはずがない。土佐校を卒業したからには、こうしたつながりや機会を是非とも各自の仕事に、プライベートにと、有効に使って欲しい。小松さんが宋氏の言葉として紹介した、「たまたまと運は違う」の真の意味は、ぜひ自身の今後の「行動」の中から見つけてほしい。

しかし、誰でも足を踏み出すには勇気がいる。そんな時、この「学生・若手社会人交流会」が少しでもその背中を押せるなら、まさに呼びかけ人代表の70回生小松岳志さんの狙い通りだ。ぜひこの会の末永い継続と発展を祈りたい。最後に、パネラー及び司会の諸氏並びに呼びかけ人の皆さん、お手伝いの皆さま、そして土佐の諸先輩方に心から御礼申し上げたい。



## 関東支部活動報告

事務局長 二宮 潔(49回)

去る11月18日、母校新校舎の竣工記念式典が母校体育館で、同日夕刻には祝賀会が城西館で執り行われた由、同窓会としても誠に「同慶の至り」です。

この喜ばしい出来事にタイミングを合わせて、面白い話題をひとつご紹介し、今回の支部活動報告とします。

今年も6月の一大イベント「関東支部総会・懇親会」(於：三菱開東園)が無事の大盛会で終わり、ほっと一息ついた7月某日、市川幹事長(53回)と鶴和顧問(41回)からほぼ同時に「戸田浩司君(80回)が7月18日のG-T戦で始球式をすることになった!」とのビッグニュースが飛び込んで来ました。4年前に戸田君の血液疾患を知って骨髄バンク支援に乗り出した読売巨人軍が「骨髄バンクシリーズ」を開催する企画でした(於：東京ドーム)。

さっそくサンスポの同級生吉井君(49回)に写真提供をお願いし、当日、市川さんと

私の二人が東京ドームに駆け付けると、ドーム前では「ドナー登録会」も行なわれており、戸田君も始球式の前に特設ステージで登録を呼び掛けました。

ドーム内に入って、高知から駆け付けた戸田君のご両親にご挨拶していると、戸田投手が高知大学の先輩捕手を伴い、ご両親の見守る前で幾分緊張した様子で投球練習を始めました。程なく本番が到来、場内アナウンスと共に電光掲示板には「始球式 戸田浩司

さん」と大きく映し出され、戸田投手のサイドスローから放たれた白球は見事、ジャイアンツ鶴岡捕手のミットに納まり、大観衆の場内は大きな拍手で包まれました。

試合中には、始球式を終えた戸田君と先輩捕手が面会に訪れ、互いにガツチリ握手。「まさかこんな企画に恵まれるとは思ってもみませんでした。緊張しました。9月には、土佐高校に教育実習にお伺いすることになっていきます。」と精悍な笑顔が印象的でした。

後日サンスポから送られた数々の写真によれば、戸田君が始球式で使用したグローブには「戸田浩司 復活」と刺繍が施されていました。

## 母校だより

学校長 池上 武雄(28回生)

皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。変わらぬ熱い思いを母校にお寄せいただき、ご支援を賜っておりますことを心より感謝申し上げます。

### ◇お陰様で新校舎が完成

第二期工事も大変順調に進み、本年6月、中央エントラ

ンス部分および中学棟が完成、これで校舎部分の全てが完工し既設の高校棟・体育館と繋がりました。7月から中学生待望の新校舎での授業が始まりました。

生徒達には、この新校舎完成は多くの先輩、保護者、各団体や企業など土佐中・高を応援して下さいている皆様方のご芳志によるものであり、いつも感謝の気持ちを忘れず、大切に、きれいに使って欲しい旨を強く申しております。10月中には運動場と附属の部室棟も完成するほか植栽も順次校舎回りに整備されております。

11月18日、本校開校記念日に新校舎竣工記念行事を行います。ご芳志を頂戴いたします。皆様全員をお招きすることとはできませんが、高知にお帰りの機会にぜひ新校舎をご覧下さい。

◇新聞広告協賛に感謝  
新校舎の全面完成に際して、高知新聞に竣工記念広告「母校を応援しています」への協賛をお願いいたしましたところ、三百三十七名の方々からお申込みをいただきました。有難く厚く御礼申し上げます。

◇新校舎建築募金の現況  
お申込みをいただきました。有難く厚く御礼申し上げます。

多くの同窓生の皆様ほかにご協力をいただき、平成21年7月31日現在、件数は、三千八百七十七件、金額は、二億五千四百三十三万三千円となりました。ご協力の心より感謝申し上げます。最終目標額四億円にはまだまだの額ですが、今後経済状況の好転を待つて一般企業などに強力にお願いして参りますので今後とも同窓生の皆様を含めて更なるご協力を切にお願いする次第です。

### ◇登山部がインターハイで全国優勝

8月1日から兵庫県で行われた全国高校総体(インターハイ)登山の部で本校チームが初優勝を飾りました。8月5日の高知新聞朝刊には「山樂しみ無欲の栄冠」「日々の努力に『神』味方」の大きな字が躍っていました。本校運動部の全国優勝は、1954年の軟式庭球部、1956年の高校軟式野球部について3回目、53年振りとなります。より高いレベルでの文武両道を目指す本校クラブ活動に見事な栄冠を勝ち取ってくれた登山部の部員ならびに関係者に全校あげて大きな拍手を贈り、感謝と敬意を表しました。



そして登山部に続くべく大いに志気も盛りあがっています。

◇ ガーナの高校生と国際交流

現本校理事浅井和子さん(35回生)が、ガーナ大使に就任されて以来続けられているガーナの高校生との国際交流が本年も行われました。

メソ先生引率の男子12名、女子8名の高校生は、来日後、8月30日「原宿元氣祭スパー」(本校生徒10名も参加)し、翌31日に来高、9月1日本校始業式での歓迎式に臨んだほか9月6日迄、尾崎高知県知事への表敬訪問や、本校での授業に参加、各クラブ体験(茶道、柔道、剣道、空手など)、日本の家庭を体験するホームステイも行われ全員元気に9月7日離高、帰国の途につきました。ホームステイなど数多くの有意義な交流の中でガーナとの絆が一層強まったと感じております。

◇ 高一生の修学旅行をよろしく

11月23日から27日まで東京都での高一修学旅行が行われます。新型インフルエンザが流行中のことでもあり対策は充分にいたして参ります

が、関東一円でのコース別研修では同窓生の皆様に格別のお世話様になります。どうか宜しくお願い申し上げます。最後に皆々様の益々のご健勝を祈念申しあげます。(平成21年10月末日)

本部だより

幹事長 西山彰一(48回生)

澄み切った青空の下、筆山の麓に、新しい校舎が完成しました。この学び舎には、土佐の建学の精神が、多くの方々のご尽力によって紐どかれ、未来に向かって大きく羽ばたく志を示した素晴らしい作品となりました。

この度、私は、安岡範悦前幹事長より大役を引き継がせていただきました西山彰一(48回)でございます。何かと不慣れで十分行き届かない点があるかと思いますが、どうかよろしくお願い申し上げます。昭和42年に私は、高知市の江ノ口小学校を卒業し、土佐中学校の門をくぐる事が許されました。当時は木造校舎で、あっちこっち、みしみしと軋む音がしておりました。が、今、思い出してみると、

周りがどんなに騒がしくても、集中できる不思議な力があつたように思います。高知商業高校(市商)が見える木造校舎で高校一年まで学び、4階建ての鉄筋の旧校舎には高校二年から昭和48年の卒業の日までお世話になりました。

2009年度の同窓会の事業は、関東支部の市川直介さん、川上司さん、川上正衛さん、武市昌広さんを始め、関東支部の皆様のご協力もいただきながら、新しい同窓会名簿の発刊を2010年末に行います。関東支部の皆様には、名簿掲載の調査票が届く事と思ひます。その節には、必要事項の記載や変更事項などの返送をよろしくお願いいたします。

母校の創立90周年の記念事業の一つとして、新しい校舎の自慢の筆山ホールにおいて、卒業生を招いての講演会を企画しております。

また、2010年は「功名が辻」に続く、NHKの大河ドラマ「龍馬伝」(主役 福山雅治)の放映と、一年間の会期の「土佐・龍馬であい博」が尾崎正直知事をリーダーに、高知県内各地で開催されます。是非、記念すべきこの年に

北海道支部だより

幹事 石川多香(68回生)

関東支部の皆様こんにちは。北海道支部の68回生、石川(旧姓氏原 多香と申します。北海道支部は早いもので今年で設立5年目を迎えました。私は支部の設立総会より参加しておりますがなかなか活動ができず、先輩方に迷惑ばかりかけております。

新聞やニュースをにぎわせているとおり、北海道では夏の終わりから新型インフルエンザの流行が始まっています。私は調剤薬局で薬剤師として働いており、勤務先も10月の連休が明けてもしばらくはインフルエンザの患者様で混み合っております。今はだいぶ落ち着いてきましたが、休

日当番病院はまだ大混雑です。

北海道は夏休みが短くて8月の下旬から学校が始まり、冷涼な気候も加えて、他の地域に比べていち早く集団感染が広まったと思われまふ。娘の幼稚園も夏休み明けに早速1週間の休園にみまわれ、運動会などの行事が延期になりました。そのため私は仕事の日

は娘の預け先を手配したり、他の日は娘の有り余る元気を発散させるためにあの手この手で遊ばせたりと対応に追われました。今のところがいと手洗いを家族全員で徹底しているおかげでインフルエンザに感染せずになっていますので、幸いというべきでしょう。皆様もどうぞご自愛ください。

さて、私自身は北海道に来て8年がたちました。はじめは釧路に2年間住み、ここ札幌での生活は7年目に入りました。愛知県出身の主人ともどもすつかり(多分)こちらの生活に馴染んでしまいました。

北海道の魅力は、いろいろあると思いますが、私が特に感じているのは「四季がはっきりしている」ということです。夏はお盆までは意外と暑

くなり30度を超える日もあり海水浴もできます。そして少しづつ涼しくなっていく秋には赤や黄色に鮮やかに色づく紅葉を楽しめます。冬は長く厳しいと思われがちですが、根雪となるのは12月に入ってからです。3ヶ月ほど雪かきに精を出しながら、スキーやそりなど冬の遊びを満喫します。そして、待ちに待った春GW頃には桜をはじめいろいろな花々がいつせいに咲き誇ります。あちらこちらでガーデニングが盛んなのも納得です。

2、3日前に雪虫が舞っていたので、平地に初雪が降るのはもうじきでしょう。落ち葉を掃除しつつ、雪かき道具の点検や、自家用車の冬タイヤ交換はいつにしようかと考えながらまた冬を迎える準備をしています。

このように所帯じみた話題ばかりですが、北海道は旅行に來ても定住してもきつと気に入っていただけると自負しております。

今年の北海道支部総会は11月21日(土)です。北海道はいつでも観光シーズンといえますので、機会がありましたら関東支部の皆様も是非ご参加ください。

### 東海支部だより

事務局長 神宮美恵子(44回)

関東支部の皆様、こんにちは。東海支部よりご挨拶申し上げます。製造業の盛んな東海地方も昨年来の不況がまだ続いております。その景気の悪さが影響したわけではないでしょうが、中日ドラゴンズはクライマックスシリーズで巨人に完敗し、サッカーの名古屋グランパスも期待通りにはいかず、フィギュアスケートの真央ちゃんもオリンピックを目前にしてトリプルアクセルの調子が良くないというようにスポーツ面でも中部は意気消沈しております。しかし、捲土重来、またの活躍を期待したいと思います。

名古屋市では国政での民主党政権が誕生する前に、「総理を狙う」と言い続けていた民主党の河村たかしさんが4月の市長選で圧勝しました。地元新聞では、「河村ウオッチ」という囲み記事が毎日掲載され、その言動が注目されております。河村さんは、どこに行っても「名古屋ことば」を使い続けており、市民の間か

らは「もつと上品なことばを使ってほしい」とか「全国に名古屋弁を広めるいい機会だ」とかいろいろの意見が出ています。

ここで、「名古屋ことば」について一つなぞなぞです。「どえりゃあ」は皆様ご存知の方も多いと思いますが、そのもつと上のことばは何でしょうか? 正解は、「どえらけにゃあ」です。「ものすこく」というような意味になります。私も名古屋に25年以上住んでおりますが、まだまだ知らない名古屋弁も多く、このことばも河村さんが市議会での所信表明で「どえらけにゃあ面白い街をつくる」と言ったこととで初めて知りました。ただし、地元の方のホームページなどを拝見すると、「えりゃあ」「どえりゃあ」「あらけにゃあ」という二段活用があつて、その上に「どえらけにゃあ」があるそうです。最上級ということでしょうか。これで行くと、「どえりゃあ美人だがや」と言われてもあまり嬉しがってはいられないということですね。方言って面白いですね。

私ごとで恐縮ですが、8月に関東支部「ハイクの会」に参加をさせていただきました。花の山「月山」の美しい山容を堪能いたしました。山に登って体を鍛え、俳句と川柳で頭を働かせ、さすが土佐校同窓会! お世話をしていたいただいた幹事の皆さま、本当にありがとうございました。どうぞございました。またよろしく願いました。

東海支部では、5月の総会と並んで支部の二天行事であります冬期懇親会の準備を進めているところです。いつもこじんまりとした会ですが、この日ばかりは土佐弁で和気あいあいの楽しいおしゃべりを楽しみたいと思います。関東支部の皆さまも名古屋においでの際はぜひご一緒にかかがでしょうか。

最後に関東支部の皆さまのご健康とご活躍をお祈りして東海支部便りとさせていただきます。



名古屋城



本丸御殿復元イメージ

△東海支部山崎幹事より追伸△  
 来年の2010年に名古屋開府400年を迎えるため、現在、名古屋城天守閣南東部において本丸御殿の復元工事が進められています。とはいっても、工事は始まったばかりで、完成予定は2017年度で来年度は一部が公開される予定です。

### 関西支部だより

「関西うまいもの」  
 幹事 中田志保美(56回生)  
 ふるさと高知でうまいもの、おいしいものといったら何を思い出しますか。ニンニクをたっぷりちらしたかつおのタタキ。豪華な皿鉢。コンニャクとたけのこのお寿司。あま

いあまい水晶豆。新鮮すり身のてんぷら。香ばしい芋ケンピ。知る人ぞ知る手結山(ていやま)の餅。だれでも一度は食べているなつかしの帽子パン。

高知においしいものはたくさんありますが、私は関西に移り住んでから好きになつたものもたくさんあります。そのひとつが「豚まん」です。初めて食べたのは小学生の頃。大阪に住む親戚宅で食べた「蓬莱の豚まん」は衝撃でした。こんなおいしいものがあるのかと思つたくらいです。

説明するまでもありませんが、豚まんは中華まんじゅうの一種で小麦粉に水、塩、酵母をまぜて作った皮で豚肉やタマネギ、たけのこのきざんだものを包み蒸しあげたもの。中国では包子(パオズ)といひます。味は醤油やオイスターソース、中身のあんはフカヒレや干し椎茸をいれることもあります。

関東では肉まんという呼び名が一般的ですが、関西では肉イコール牛肉という考えがありませんので、肉まんとは呼ばずに豚まんと呼ぶようです。いまや全国どこのコンビニでも、あつあつに蒸しあげた

豚まん(肉まん)を買うことができます。あんまん、ピザまん、カレーまんとかバラエティーにとみ、味もけつして悪くありません。でも関西の豚まんはイチ押しです。

特におすすりなものはいくつか、ご紹介しましょう。前述の「蓬莱」。関西では「551の豚まん」という名で親しまれ、支店も多く、子供からお年寄りまで親しまれています。皮はほんのり甘く、タマネギがたっぷりはいつていておいしいです。二番目は「老祥記」。ガイドブックには必ず載つている有名店です。神戸元町の南京町に店を構え、観光客でいつも行列ができています。こちらの豚まんは小ぶりで食べやすく、十個単位で買つていく人が多いです。三番目は「三宮一貫楼」。ポリウムでは一番です。JR三宮駅に店があるので、よく売られています。蓬莱の支店は大阪にはたくさんありますが、ここ

のほないので、大阪から来た人はよく買って帰ると聞いています。最後に「四興楼」。これも神戸元町の店です。厨房も売り子さんも中国人(たとひ思ひます)で、本場ながら日本人の好みを押さえた味で

す。モチモチとした皮とジューシーなあんが人気です。以上、どれもおいしく順位をつけられませんが、関西名物といつてもいい豚まん。ぜひ機会があればお試しください。

## 広島支部だより

### 幹事 山崎迪子(40回生)

関東支部の皆様、いかがお過ごしでしょうか。広島支部

では、11月28日に行われる広島支部総会の準備に入っております。今年は、岡上功さん(40回生)に「F1の世界」と題して、マクラーレンに所属し世界を転戦していた頃のアイルトン・セナの思い出やミヒヤエル・シューマッハのことなど日頃の私達とは、別世界の苦労話や楽しい話をし

てもらおう予定になっております。岡上さんとは同じクラスで、無線に熱中して色々なことがあったら、ホームルームでみんなに話してくれたことがありました。その無線を活かす仕事について世界で戦うなんて羨ましい限りです。

関東支部の皆様も宜しかったら話を聴きにいらつしやいませんか？

ところで広島のお祭りとお聞かれると、ゴールデンウィークに行われるフラワーフェスティバルとお答えになることと思ひますが、本日は、お酒好きの高知県人には堪えられない日本酒のお祭りをご紹介します。広島市の東にその名も「東広島市」で行われる「(西条)酒祭り」で、10月10・11日に行われました。

今は東広島市という名前に変わりましたが以前は、西条町といい、こじんまりとした昔から酒造りで有名な町のお祭りです。広島からラッシュユ時と同じくらいの満員のJRで約40分、駅に降り立ち、帰りの切符を買つたらもう目の前からお祭りが、始まっています。「メイン会場」「酒ひろば」を尻目に私達は、酒蔵イベント会場へ人混みとともに移動します。

西条の酒蔵は9カ所。少し離れたところは敬遠して期待を込めてゾロゾロと・・・まずは「白牡丹酒造」の濁り酒。これは無料。コップを持って「濁り酒とは久しぶり・・・」なんて言いながらおいしかった！有料試飲コーナーには目もくれずコスモスの花で一杯の酒蔵通り歩行者天国を次ぎ

へ急ぎます。「西条鶴酒造」でも無料のお酒に舌鼓。この辺りでみんなが手にしているおつまみに気がつき目移りしながら「とこてん」や「たこ足天ぷら」等々(中でも酒ソフトクリームはおすすりめ)

ただきながら、次へ移動。「賀茂鶴酒造」でも並んで新発売のお酒を無料の試飲。ここでもおつまみを物色しているとサイレンが・・・気分が悪くなつたお客さんが救急車で搬送されました。次の「亀齢酒造」からは、無料試飲がなく100〜500

円程度の有料試飲となりました。「なぜ？」と見渡せば、かなりいい気分の方がすくなからずいて試飲が有料になったことに何となく納得してしまひました。この辺りでは、おつまみも食べ物もビールも山盛りで「世羅牛」一頭が丸焼きになつていてすごいニオイだし、松茸ご飯は売つて

いるし(西条は松茸の産地でもあります)大人も子供も赤ちゃんも何か食べて飲んでひます。広島大学の学生参加らしいイベントやお店がここにも沢山あります。「福美人酒造」を経て最後に「賀茂泉酒造」を目指します。賀茂泉は、私や

親戚がひいきのお酒がありま  
すが、期待していたそれは試  
飲もなく残念でした。でも別  
の大吟醸の試飲があり、やっ  
ぱりおいしかった。満足！。

「ここまで回った酒蔵は6軒  
さすがに残り3軒は回りきれ  
ず、これまた結構人で一杯の  
JRに何とか座ることができ  
帰って来ました。駅からバス  
に乗ると酒祭り帰りのおじさ  
んが一人で騒いでいました。  
ヤレヤレ！

「酒ひろば」では全国から  
厳選された約900銘柄を飲  
み比べ可能。さらに各酒蔵で  
はジャズ、オペラ、ピアノ演  
奏と何でもあり、駅前ではな  
ぜかモンゴルのお酒も売って  
いました。日本酒だけではな  
く酒都西条は、各酒蔵で酒造  
りに使う井戸水がおいしいし、  
古い酒蔵の建物には、風情が  
あつて例年たくさんの人出で  
にぎわいます。一度いかがで  
すか？お酒は安く沢山飲める  
こと請け合いです。

広島のお酒は、その昔、呉  
所属の海軍の軍艦に積んでい  
た呉地区のお酒も有名ですが  
高知に比べると甘口が多いよ  
うに思います。

土佐高同窓会広島支部では、  
高知のお酒も栗焼酎も用意し

て皆様のおいでをお待ち致し  
ております。もちろん広島の  
お酒もあります。

2次会も、場合によっては  
3次会(？)もの広島支部は  
いかがでしょうか・・・  
同窓会酒蔵を開けてお待ち  
致しております。

### 香川支部だより

事務局 大石 浩 (54回生)

関東支部のみなさん、こん  
にちは。香川支部事務局の大  
石と申します。さて、今年の  
香川支部「七夕総会」は、例  
年どおり7月第一土曜日の7  
月4日にJR高松駅前「高  
松シンボルタワー」で開催し  
ました。当日は、池上校長先  
生が、超ご多忙の中を何とか  
日程調整をして初めて香川支  
部総会に参加して下さい、校  
舎建替えの現状や母校の近況  
を詳しくご披露いただきました。  
関東支部からは、昨年に  
引き続き二宮事務局長が、大  
いに宴席を盛り上げてくださ  
いました。ご多忙の中、また  
遠路を本場にありがとうございました。

今回の総会では、支部長は  
じめ役員の交代がありました。



18年度以降3期にわたって支  
部長を務めていただいた宮地  
正隆支部長が高知にお帰りに  
なることとなり、安岡弘道幹  
事長が新支部長に、大黒英男  
筆頭幹事が新幹事長に就任さ  
れました。その他にも、転勤  
により谷脇守幹事(48回)と  
中嶋康士事務局長(64回)が  
高知に帰られ、新たに森本和  
彦さんと安岡和浩さんに幹事  
と事務局にそれぞれ加わって  
いただきました。なお、宮地  
前支部長は高知にお帰りにな  
りませんが、香川支部顧問とし  
て引き続き支部活動をご支援  
いただくこととなりました。

香川支部新役員は以下のとお  
りです。今後とも、どうぞよ  
ろしくお願いいたします。

支部長 安岡弘道(41回)  
(前幹事長)

幹事長 大黒英男(46回)  
(前幹事)

幹事 森下 博(48回)  
(前事務局)

幹事 上池 裕(50回)  
広田昭夫(56回)  
森本和彦(57回)  
(新任)

幹事 清岡豊彦(63回)  
土田哲也(32回)  
宮地正隆(36回)  
(前支部長)

顧問 武山正人(40回)  
野村喜久(54回)  
大石 浩(54回)  
安岡和浩(75回)  
(新任)

事務局 大石 浩(54回)  
事務局 安岡和浩(75回)

事務局 武山正人(40回)  
野村喜久(54回)  
大石 浩(54回)  
安岡和浩(75回)

事務局 大石 浩(54回)  
事務局 安岡和浩(75回)

した。毎年心配しているお天  
気もまずまずで、会場から臨  
む瀬戸の夕景を楽しみながら、  
あつという間に楽しい時間が  
過ぎ、最後は、校歌斉唱と退  
任される宮地支部長への応援  
エールで締めくくりました。  
来年の香川支部総会は7月  
3日(土)を予定しています。  
飛び入り参加大歓迎ですので、  
是非とも高松駅前シンボルタ  
ワーにお立ち寄りください。最  
後になりましたが、関東支部  
の皆さまの益々のご健勝とご  
活躍をお祈りいたします。

季節のふるさとの味  
**土佐酒蔵**

銀座7-12-4 友野本社ビルB1  
電3545-3855 銀座第一ホテル通り

# 岡崎さんのこと

## 26回生 野波博泰

岡崎さんに親しくおつきあ  
 いただくようになったのは、  
 昭和26年の東大の入試の時以  
 来のことである。終始付き添っ  
 て下さった岡崎さんは、試験  
 が終わった日、当時練馬の大  
 泉に住んでおられた近藤先輩  
 のお宅に我々を引率して連れ  
 て行き、盛大な酒盛りを催し  
 てもらってくれた。この時、  
 私は、初めて自分も結構いけ  
 ることを自覚した次第である。  
 私が、今日、イッパシの酒飲  
 みになった遠因は、ここらあ  
 たりにもあるように思われる。

近藤さんところには、「ま  
 んじゅう会」と称して、多く  
 の土佐の同窓が集まった。  
 「まんじゅう会」は、元は17  
 回の伴正一さんのお宅で、政  
 治経済から恋愛論に至るまで  
 自由に議論する場としてしま  
 った。アメ横で、当時1個10円  
 の饅頭を7円位で仕入れ、そ  
 れに、それなりの格安値段で  
 仕入れたセンベイや落花生等  
 を頬張りながら議論したこと  
 から、「まんじゅう会」と呼  
 ばれるようになった。伴さん

が、近藤さんの大泉のお宅の  
 近くに引越されてからは、  
 ごく自然に近藤さんのお宅に  
 集まるようになり、最盛期に  
 は次のような賑やかな顔ぶれ  
 になった。

近藤久寿治(6回) 東大文  
 同 学 社 社 長 故 人  
 島内 淳(16回) 東大法  
 同 学 社、実 教 出 版 故 人  
 曾和純一(16回) 東大法  
 三 菱 重 工  
 伴 正一(17回) 東大法  
 外 務 省 故 人  
 光森 正(20回) 東大法  
 千 代 田 化 工 建 設 故 人  
 宮地貫一(21回) 東大法  
 文 部 省  
 北村正志(22回) 東大法  
 外 務 省 故 人  
 岡崎昌生(23回) 東大法  
 大 蔵 省 故 人  
 山村泰造(26回) 東大法  
 小 野 田 セ メ ン ト 故 人  
 野波博泰(26回) 東大法  
 日 本 水 産

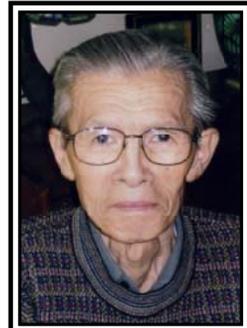
本拠が近藤さんところに移っ  
 た頃から、近藤初甲夫人の手  
 料理で、伴さんの言う「発酵  
 したヤツ」であるお酒を頂く  
 会に変容していったのは、ご  
 く自然な成り行きだったよう  
 である。当時、近藤さんの長  
 女康江ちゃんも長男孝夫君も

未だ幼く、岡崎さんは二人を  
 「ヤヤ、ヤヤ」と呼んで可愛  
 がった。

酒がまわれれば放歌高吟は世  
 の習いである。謹厳な宮地さ  
 んが「努力の努の字はヤッコ  
 ラヤのヤ。分析すればノー稚  
 児さん。女の又に力いる力い  
 る。ヤッコラヤのヤッコラヤ  
 のヤ」とやって、初甲夫人に  
 「まあー宮地さん」と睨まれ  
 たりした。そして徹夜麻雀に  
 入っていくのが何時しか習性  
 になった。そんなところに我々  
 は放り込まれた訳である。

このように、兎角、岡崎さ  
 んと言えば酒ということにな  
 りがちだが、同時に岡崎さん  
 は、キメ細かい気配りの人で  
 もあった。後年、平成8年に、  
 私が妻を亡くした時は、岡崎  
 さんは、枕頭で呆然自失して  
 いる私を脇に置いて、葬儀屋  
 に次々との確な指示を下され、  
 お陰で通夜から葬儀告別式ま  
 で滞りなく執り行うことが出  
 来た。そればかりでなく、忌  
 明けの49日祭を郷里の佐川の  
 田舎で営んだ際は、岡崎さん

もわざわざ帰省して駆けつけ  
 て下さり、懇ろに供養してい  
 たいただいたことが、昨日のこと  
 のように想い起される。岡崎  
 さんにはそういう一面もあっ  
 た。



在りし日の岡崎さん



### 岡崎さんを偲ぶ 会のご報告

【44回生 永森裕子】

10月9日、三菱クラブにて、  
 6月に逝去なさった筆山会  
 会長の岡崎昌生さん(23回)を  
 偲ぶ会が開かれました。

発起人でもある泉谷良彦関  
 東支部長(29回)の「岡崎さ  
 んはエンマ様に酒の量を申告  
 して、一杯税金を払ったから  
 天国行き、と言われたに違  
 ない。」という、しんみりし  
 た中にもユーモアあふれる追  
 悼のお言葉が始まり、宮地貫  
 一元支部長(21回)の李白の  
 詩を交えた岡崎さんの思い出  
 話、また旧友の傍士和彦さん  
 (23回)、濱田幸雄元衆議院議  
 員のご子息で岡崎さんを「お  
 酒の先生」とおっしゃる濱田

矩彦さん、ご遺族側から岡崎  
 さんの甥で漫画家故横山隆一  
 氏のご子息、横山隆雄さんの  
 ご挨拶がありました。奥様  
 のお話からも在りし日の岡崎さ  
 んが、筆山に連載して下さっ  
 ていた「岡崎のおんちゃん」  
 の思い出話を彷彿させるよう  
 に蘇りました。

皆で岡崎さんがごよなく愛  
 した「船中八策」を傾け、岡  
 崎さんのエチオピア滞在にち  
 なんだ、窪田秀忠さん(38回)  
 から送られてきた野市名物  
 「エチオピア饅頭」に舌鼓、  
 「岡崎のおんちゃん」の愛す  
 べきお人柄が偲ばれる終始な  
 ごやかな会でした。最後に奥  
 様より「岡崎のおんちゃん」  
 名物、ラム・ポールを頂戴し  
 散会しました。



# 「二九の会」近況報告

## 「二九の会」代表幹事 小笠原博幸(29回生)

毎年10月29日は「二九(ふく)の会」総会の日である。

今年も、例年以上に出席者が多く46人となった。会員の大半が、後期高齢者入りを間近に控え、また、新型インフルエンザの流行で4、5人の欠席者が出ることは覚悟していたが、欠席者は一人だけとなった。高知から6人、大阪、名古屋からもそれぞれ駆けつけ元気な顔ぶれが揃った。それでもこの1年に3人が亡くなり、総会は黙祷から始まるという悲しい現実がある。

記録によると、H、O、K、S、4クラス合同の同窓会を始めて開催したのが、1980年銀座館で、今年ちょうど29回目の記念すべき年となる。また、本年6月に開催された関東支部総会では、「九」のつく卒業年次が幹事役になったことから、「二九の会」が最年長の幹事となつて、若くて元気な後輩諸氏との交流が出来たことも大きな収穫であった。

「二九の会」のほとんどのメンバーは、戦後間もない昭和23年、廊下にところどころに穴の開いた、木造バラックの校舎に入學し、高校卒業、大学、就職と今日まで60年余



校歌斉唱

では遊びの会でもある。気心の知れた、10代の頃からの仲間と少年時代に戻つて、楽しい遊びの時間を共有することは何にも増して幸せだと思ふ。愛好者が多く盛んなのはゴルフ会である。最近ホールインワンを達成したという元氣者がいるなか、東京近郊での例会をはじめ国内では高知、北海道、国外では東南アジア、オーストラリアと遠征を続けてきたが、これから年を重ねるにしたがつて、参加者もだんだんと少なくなるのはしかない。



二九の会 懇談風景

共にあつた時代で、その後バブル崩壊後の低成長へ突入後は、大半のメンバーは第一線から退いていたこともあり、右肩上がりのよき時代を生きてきた感を強くする。年を重ねるにしたがつて、入学当時のことをはじめ中学、高校時代の古いことが記憶の片隅から、次々と出てくるのも不思議である。



また、このところ益々活躍し会員を楽しませてくれるのが、僅か3年前にアルゼンチンタンゴを歌い始めたにもかかわらず、中年の星になりそうな勢いの関明子様(関猛夫君の奥方)と、有名なチェロ奏者の富永恵子様(富永啓一郎君の令嬢)である。

- 母校・同窓会本部・各支部**
- 土佐中学・高等学校 事務局 千頭裕 〒780-8014 高知市塩屋崎町1-1-10 (TEL)088-833-4394 (FAX)088-833-7373 (E-mail)tosa@tosa.ed.jp (HP)http://www.tosa.ed.jp/index.html
  - 土佐中学・高等学校同窓会本部 会計幹事 千頭裕 〒780-8014 高知市塩屋崎町1-1-10 (TEL)088-833-4394 (FAX)088-833-7373 (E-mail)tosa@tosa.ed.jp (HP)http://www.tosaobog.com/
  - 同窓会北海道支部 事務局長 山本隆昭 〒001-0018 札幌市北区北18条西6丁目 ARTE 88-305 (TEL)011-756-2817 (FAX)011-756-2817 (E-mail)yamat@den.hokudai.ac.jp
  - 同窓会香川支部 事務局長 武山正人 (担当:大石浩) 〒760-8573 高松市丸の内2番5号 四国電力(株) (TEL)050-8801-2720 (FAX) (E-mail)ooishi11737@yonden.co.jp
  - 同窓会広島支部 事務局長 山崎迪子 〒732-0062 広島市東区牛田早稲田1-24-7-210 (TEL)082-227-2656 (FAX)082-227-2656 (Email)myamazaki@do2.enjoy.ne.jp (HP)http://www.geocities.jp/hiroshimashibu/
  - 同窓会関西支部 事務局長 原田和人 〒530-6001 大阪市北区天満橋1-8-30 OAPタワー1F アリコジャパン内 (TEL)090-1073-7822 (FAX) (E-mail)harada73@hotmail.com (HP)http://www.tosa-ko.org/kansai/
  - 同窓会東海支部 事務局長 神宮美恵子 〒468-0075 名古屋市天白区御幸山1201 御幸山パークマンション B-301 (TEL)052-837-5834 (FAX) (E-mail)jjjingu-m@crux.ocn.ne.jp (HP)http://tosakotokai.web.infoseek.co.jp/
  - 同窓会関東支部 事務局長 二宮潔 〒100-8222 東京都千代田区丸の内2-6-1 丸の内パークビルディング 森・濱田・松本法律事務所弁護士市川直介気付 (TEL)03-5223-7719 (FAX)03-5223-7619 (E-mail)naosuke.ichikawa@mhmjapan.com

# 第十二回土佐高ハイクの会 土佐ハイク、月山も踏破す

中島宏 (38回生)

出羽三山、といわれても南国高知で育った我々にとつて、それがどこにあるのかを詳しく知っている人は少ない。東北のどっかじやろう、ぐらい

の知識である。しかし、山行を十二回も重ねてきた土佐ハイクの会では、少々の山では物足りなくなつてきており、今回はこの出羽

三山の最高峰の月山に行くことになった。山好きなら誰しもがあこがれる日本有数の名山である。

平安時代からの山岳信仰の山でも知られている、月山、湯殿山、羽黒山の三つを合わせて出羽三山という。庄内平野に君臨する巨大な山塊であるが、独立峰である。日本海からの寒風、豪雪を受け止める山でもあり、平野から仰ぐ雪山の雄大さでも名をなしている。

独立峰なので山を登るに連れて、麓の平野や尾根からの稜線、谷の姿を一望できる。緑のブランケットを思わせる光景である。高度を上げれば秋田との県境にそびえる鳥海山やお花畑で有名な朝日岳連峰が、指呼の間となる。まことに美しく、

こころ洗われる。

しかし、東京からは何せ遠い。六百キロメートルを超える長距離、六時間を超える旅程である。八月一日朝七時半に新宿を出て、羽黒山については午後三時近く、長時間のバスの旅となった。

今回の特徴は、俳句の宗匠が、三七回の中山世一さんに代わったこと、参加者が昨年よりも増えて三十名を超えたこと、三七回の夫婦連れの参加者が五組となり、三八を圧倒したこと、俳句のほかに川柳もやったこと、などである。一日目は、羽黒山神社に参詣、二日目に月山に登るといふ予定が立てられた。八合目の弥陀ヶ原までバスで行き、湿原を散策する組と六時間をかけて頂上に登る組に分かれて行動するのである。

参加者が詠んだ俳句によくあらわされている、それをご披露しながら、このレポートを書くことにしたい。

一日目の羽黒山神社は、一言で言えば、東北にある伊勢神宮、いや吉野山とも言うことのできる、立派な社で、沢山の神官がご神体に向けて祈り、その手前には白装束の講中の信者が頭を垂れて、神札を受けている、その数も尋常ではない。本殿にいたる参道には、二千余段の石段がありその周囲を杉の巨木が囲んでいる、爺杉と呼ばれる千年を超える樹齢の木もある。途中には将門の建立による五重の塔もあり神域にふさわしい。ここで詠まれた句には、

将門も聞いたヒグラシ羽黒山  
丸内のすっぽん  
参道の長き石段夏木立  
濱田育子 継夫さん夫人  
夏木立凛と身にしむ神の山  
前田雅子 憲一さん夫人  
ひぐらしに追われておる杉木立 永森裕子 (44回)

がある。丸の内ですっぽんというのは中山宗匠が付けた馬田さん (37回) の俳号 (?) である。宗匠は、出身の町はどこか、と聞き、動物の名を付与する。馬田さんの印象が

すっぽんだったのであろう。

二日目は、弥陀ヶ原で詠まれた句が多かった。尾瀬を思わせる湿原に木道が続いており、夏の高山植物が咲き乱れている。ミヤマリンドウ、チングルマ、ウゴアザミ、ハクサンフウロ、ヤマハハコなど、おそらく誰も名前からは想像できないが、可憐で美しい花々。短い夏を懸命に生きている。そこでの句には

弥陀ヶ原朝日に輝くキンコウカ 沢村武彰 (38回)  
お花畑池塘に映る月の山 中島 宏 (38回)  
彼の人も詠みし月山キスゲ咲き 高田谷洋 (38回)  
緩やかで長い。老人から子供までの白装束の人々が集団となつて往来し、ハイカーも多い。高度が上がるにつれ、雪渓が顔を出す。雲海が秋田方面の山々を覆い、雲が立ち上る。

そこで詠まれた句は  
信仰の山にほら貝雲の峰



月山弥陀が原にて全員集合



羽黒山参道



月山頂上にて

### 雪溪に流れる汗や月の山

山田の鯉  
戸波の鯉

### 雪溪の下に顔出すチングルマ

岡田四郎 (38回)

などがある。山田の鯉は濱田さん (37回)、戸波の鯉は羽方君 (38回) の新しい俳号 (?) である。

月山の頂上は、沢山の石で築かれ、囲まれた神社が鎮座します。城のようである。おそらく冬の寒風、豪雪をしぐため造りだと思われ、その頑丈さが逆に冬の厳しさを示している。曇りのち雨、という前日の予報であったにも関わらず、山頂は晴れ。時刻は十時、朝五時に出発し、

登り始めたのが六時ごろだったので四時間をかけて着いたことになる。眼下に、雪溪、緑の谷、そして麓の村や町、ダム、その向こうに更なる山々が広がっていた。

山頂からの帰途は巨大な雪溪がある沢を四百メートル急降下する。夏スキーで名を知られた場所でもある。尾根道も目標となるスキーのリフトも見えてはいるが、山の広さが遠近感覚を狂わせる。近く見えるが遠い。その上を動いている人たちが蟻のように見える。険しい瓦礫の道を這いつくばりながら、降りついたのが、十二時半ごろ。スキーリフト頂上駅に着いたときには、みんなの脚は完全に笑っていて、体力の消耗激しいものがあつた。しかし、口だけは元気があつた。特に西内君 (38回) が舌好調で、

月山にウマより早い亀がいるこれで川柳は出来た、と皆に吹聴した。ウマは先頭を行く予定になっていた馬田さん、亀はご存知の西内君の家の屋号である。昨年心臓の手術をした俺の方が元気で早かったという意味だが、残念ながら、中山宗匠の選には入らなかつた。もつとも早かつたのは登



雪溪を横に見ながら下山

りだけで、下りは馬田さんの方が圧勝している。「やっぱり三宅は無理だったね。良かった」と亀こと西内君が言っていた。下りの厳しい道で三宅君 (38回) ならへばっていたであろう、登らなくて良かった、という感想を述べているわけだが、最近、肝臓の指標が良くない三宅君の体調を案じての言葉なのか、それとも、俺なら出来たが三宅であれば出来なかつたという意味なのかわからないが、友を思う (?) 美しい友情が随所に出ている。

川柳の部では、名古屋から来た若手 (?) の神宮美恵子さん (44回) が最優秀の「天」を取つた。

どうしたのいとしの君のメタボ腹

いとしの君にうまいものを食べさせすぎた成果が出すぎたと

いう内容である。携帯で帰りが遅くなる旨を夫君に連絡したら、「エエッ、今日帰るの?」といわれてカチツと来て、川柳ができた、という話をされていた。土佐の女であるから、帰ってからきちつと詰めたことであろう。メタボでは負けない高田谷君もそういう句を奥さんに詠んでもらいたかつたかもしれない。「地」「人」の句は

夫婦仲見ざる言わざる間かざるか 橋田正幸 (37回)  
すれ違う同士をわれと歳くらべ 中村裕子 (37回)

帰りのバスは、こうした俳句や川柳で大いに盛り上がった。もつとも、夫婦で参加している三七は総じておとなしく、三八で盛り上がった感はある。三七でも単身参加の馬田さんは、やたらと元気だつた。橋田さんの句は誰のこと

を言っていたのであるうか? 苦吟した人 (?) も居て、選外努力賞というかブービーとなつた句は涙ぐましい。バスの中俳句考え酒も進まず 三宅ヨシロウ  
俳句では俳号を付けて貰つた者が上位入賞となり、陶芸家井上君 (38回) の作つた作品をいただいた。井上君の無



井上さんの作品として贈られた大皿の賞品

償の貢献が毎回この会を大いに盛り上げている。川柳では、選者である中山さんに賞品を出していただいた。

川柳の後は、ガイドの中沢嬢と土佐の綾小路きみまろこと私中島や幹事の岡田君らとの掛け合いが笑いを呼んだ。中沢嬢が泉ピン子さながらの演技を見せると、それに対抗して司会のきみまろが、クラブ「枯葉」のマスターとなつて寸劇を繰り返す。それを再現するのは難しいが、小ピン子と土佐きみまろの漫才だつたと理解していただければ、と思う。鯉と小ピン子の二人が「銀座の恋の物語」をデュエットし、きみまろが合の手で盛り上げる。バスの中がクラブ「枯葉」となつた。

十三回連続して参加している中村裕子さんが「今までで、一番良かったじゃないの」と言っていたが、山も、バスの中も良かった、という意味では、その一言が参加者全員の心情を表している。

# 第六回ガーナ・日本高校生交流のぞく報告 公文敏雄(35回生)

セント・ピーターズ高校を中心とするガーナ高校生を招いての土佐中・高生ら日本の生徒との国際交流行事が、お蔭様で今年も無事に終わった。私

ども支援会に寄せられた多くの感想文には、感性豊かな若者が、非日常的体験を通じて人生の基本(人間力)を身につけていく様子が生き生きと綴られているので一端をご紹介します。なお、今年の交流日程概要は次のとおり。

8月21日ガーナ高校生一行二十名来日、麻布など都内高校生と交流開始。27日土佐中高校生十名上京合流。30日原宿スパーよさこい出場。31日ガーナ生来高。9月1日土佐始業式、交流開始。3日より3泊のホームステイ。6日高知ガーナの夕べ。7日離高。



「ロッセ・ガーナよさこい連」の表参道行進

(「ガーナよさこい支援会」35回生 公文敏雄 記)

◇土佐中・高生の感想(抄録)

英語の大切さを学んだ。解からないことが多くその時が一番悔しかった。また、挨拶をきちんと返してきて、とても嬉しかった。会うたびに挨拶で次第に仲良くなった。先生が「挨拶はきちんとしなさい」と言っていた意味がやっとわかった。(中一Sさん)

外国人と遊んだ経験があったので大丈夫だと思っていたけど、ホームステイは楽しかった。話すのは、英語が得意とは全然違う。外国人の国につきあうにはまず相手の国について色々知っておいたほうがいいんだと思った。(中三K君)

ホームステイで良かったのは生身の外国人と英語で話が出来たこと。彼は積極的で、パーベキューでは自分で肉を焼き、お皿を洗ってくれて大変助かった。銭湯や、宮崎駿のDVDも気に入ったようだ。陸上の大会の応援に来てくれた僕が一着になったのすごく喜んでくれた。(中三T君)

ガーナ人は皆なすごく明るくて、身振り手振りで何とか話せ友達もできた。優しく楽

しい麻布生や関東地区の人達とも交流できた。最初宿題や合宿があるのでよそうかとも思ったが、充実した毎日新鮮でいい思い出になった。英語頑張ろう。(高一MMさん)



テレビ局のインタビューも

何回も聞き返される、逆に聞いても聞き取れない。それでもなんとするかノリで通じた時は、ガーナの人たちの明るさが伝染してくるような感じがして気持ちが明るくなった。よさこいの時も私たちのガイドを受けている時も笑顔。萎えそうになってもあまり嫌だと思わないのは、きっと彼ら彼女らの笑顔。パワーなのか。(高一MHさん)

一緒に楽しもうと盛り上げ

てくれるなど、いろんな場面で私達を引っ張ってくれた。交わるうち積極性などの長所を多く発見できた。一方で日本の文化を客観的に見つめ「世界の中の日本」を考えることができた。「よさこい」はコミュニケーションツール。皆で踊ると本当に楽しい。心一つにしていく過程が私にとって大きな財産となった。

来年はホームステイの受入れもしたい。(高一MEさん)

中二の時の交流では対話が全くできず、悲しい思いをしたので、初のホームステイで自分に挑戦した。来た子は弟と同じ十四歳というのにもう自立し、きちんと自分の将来の夢も決めて努力している。とても礼儀正しくて遠慮深く絶対自分から要求したりしない。お箸の使い方も上手。全てに感銘を受けた。今もメールで連絡しあっている彼女を見習って、私も力強く生きていきたい。(高二ATさん)

ホームステイ受入れは、英語力の不足、食べ物がかなか口に合わないなどの苦労もあったが、得たものは大きい。何より、彼女が抱く大きな夢を語ってくれたことが、私の将来をきちんと考えるきっかけを与えてくれた。もっと知り学ぶために大きな視野を持ちたい。(高二HYさん)

狭かった私の世界が少し広がった。県外と国外に同世代の友達が多かった。会話の楽しさを覚えた。ガーナの高校生は自分の将来をしっかりと見据えていて、いろいろ考えさせられた。土佐高校のつながりの深さ、卒業後もまた集まって協力している先輩方を見て、改めて自分の学校が好きになった。(高二AKさん)



「まずは召し上がれ」「ん？」お茶会にて



命を落と  
している。  
「生命を  
生かすも  
殺すも水」  
それまで  
テンショ  
ンの高かつ  
た私の頭  
が冷やさ  
れた。交  
流参加の  
意義に、  
JICA  
訪問も含  
まれると  
思う。

（高二Mさん）

「・・・レッツゴー」。表  
参道の長い道のり。振付の激  
しいガーナ風よさこいはすぐ  
に私の体力を奪っていく。う  
わあ疲れてきた。お客さんは  
いっぱい、カメラも回りゆう  
し・・・必死で踊り終わった。  
よさこいとは、「1人はみん  
なのため、みんなは1人のた  
め」。そして何事も笑顔で。  
笑顔があればどのチームも楽  
しく見える。この二つを将来  
生かしていきたい。

（高二Mさん）

一所懸命練習はしたが、ガー

ナ生を迎えての始業式で僕の  
英語の挨拶が外国人に伝わる  
のか？意外にも受けは良かった。  
最終日「ガーナの夕べ」  
ではガーナ生に「Oh, Sri.  
（生徒会長）」と呼ばれた。  
この四日間で学んだことは

「言いたいことをどうにかし  
て伝えようとする気持ち」の  
大切さ。難しいが、伝わった  
時の充実感はとても大きい。  
一歩前進だ。（高二YN君）

病気で殆ど参加できず悔  
しくて仕方がなかった。仲間  
に聞いた話だと、ガーナ生た  
ちは、どの大学に合格するか  
なんてものではなく、将来自  
国をどう引く張っていくか、  
そのため何をすればよいかなど  
未来の設計図を考えており、  
完成度が私とは比べ物になら  
ない。幸い最後の「ガーナの  
夕べ」で人種や言葉・心の壁  
を越えた笑顔はじける交流を  
体験、将来のイメージが見え  
てきた。（高二TK君）

植物園では、出て来ない単  
語にイライラしつつも楽しい  
時間を過ごし、言いようも無  
い充実感と達成感があった。  
後日ガーナの方々の前でお茶  
を点てるという大役を任せら  
れた。切羽詰ると人は能力を発  
揮するのか、苦いお茶はとも

（高二TK君）

かく和菓子美味しく召し上  
がっていたらうえ、作る  
（点てる）体験もしてもらえ  
た。最後まですばらしい交流  
になった。（高二HMさん）

最初はホームステイ受入れ  
に尻込みしていたのに、高一  
の男の子はホスト役の責任を  
感じて頑張ったし、中二の子  
がやがて「こんな受入れもい  
いね」と言ってくれた瞬間の  
嬉しさ。ガーナの夕べでは、

「ガーナの人のために何が出  
来るか必死で考えていたが、  
それは間違っていた。考える  
のはあなたたちガーナ人です」  
という浅井元大使のスピーチ  
をガーナの子たちが傾聴して  
いたのが印象に残った。後日  
ガーナの彼から電話がかかっ  
てきた。（高二生父兄）

「大統領になってまた来るよ」高知駅出発ホーム



「大統領になってまた来るよ」高知駅出発ホーム

土佐高校訪問初日は始業式  
参列。スピーチと贈り物など、  
すべてに歓待と親しみの気持  
ちを感じた。僕達への接し方  
もすばらしい。まず笑顔、手  
をちよつと振る、名前を聞い  
てくる、彼らも名乗る、といつ  
た具合だ。翌日市長表敬訪問  
のため街を歩いた。ゴミが落  
ちてない。車は追い越しなど  
せず、信号でちゃんと停まる。  
何とマナーの良いことか。市  
役所では、約束の時間ピタ  
リに市長が現れた。彼は決し  
て時間を無駄にしないに違  
い。日本が発展した理由を  
納得した。（高三EO君）

ホストファミリーのお宅で  
は、まるで自分の家にいるよ  
うなくつろいだ気持ちにさせ  
ていただいた。ショッピング  
センターでの買い物、高知城、  
桂浜・・・ここでは浜辺を歩  
いてあちこちで写真を撮った  
りして本当に楽しかった。何  
とアフリカンマーケットにも  
案内していただきガーナの食  
材が手に入ったので土曜の夜  
はガーナ料理が食卓に。私は  
いま、高知市民いや殆どの日  
本人が謙虚で親切と断言でき  
る。ホストファミリーさま  
「アリガトウ」。また高知に  
来たい。（高二AAさん）

元ガーナ大使 浅井和子（35回生）  
日本から持参  
した浴衣を着て  
例年のチルドレ  
ンズ・パークに  
着くと、早くも  
「土佐の高知の  
〜」と、よさこ  
い意頭がポリリ  
ュムをあげていた。  
大きく張り巡  
らされたテント  
に近づくと、何やらおいしそうな匂いが  
してきた。思い思いの浴衣を着て華やい  
だ二十四〜五名の女性の青年海外協力隊  
員が焼きそば、たこ焼用に鉄板を温めて  
いるところであった

隊員に連れられた地方の小学生のチ  
ームが大使賞を、また、へつぱり腰で行進  
するガーナ踊りを入れたチームが高知市  
長賞を貰った。こども達が真剣そのも  
の顔で踊る姿はなんとも可愛い。ダ  
イナミックに踊  
る男性たちの顔  
も輝いていた。  
プログラムの  
後半は、日本舞  
踊の披露、日本  
大鼓の連弾など、  
柔道のデモン  
ストレーション  
第8回「ガーナ  
でよさこい20  
09」を閉めた。

イナミックに踊  
る男性たちの顔  
も輝いていた。  
プログラムの  
後半は、日本舞  
踊の披露、日本  
大鼓の連弾など、  
柔道のデモン  
ストレーション  
第8回「ガーナ  
でよさこい20  
09」を閉めた。

ガーナでよさこい2009

2009年11月14日

元ガーナ大使 浅井和子（35回生）



イナミックに踊  
る男性たちの顔  
も輝いていた。  
プログラムの  
後半は、日本舞  
踊の披露、日本  
大鼓の連弾など、  
柔道のデモン  
ストレーション  
第8回「ガーナ  
でよさこい20  
09」を閉めた。

# ふるさとへの手紙 (十三)

宮村 円絵 (76 回生)

土佐高校のOB・OGの皆様方、こんにちは。

私は今、勤め先の日本銀行から機会を得まして、アメリカはニューヨーク市にあるコロンビア大学のロースクールで、金融取引法、金融規制法を中心に勉強しています。

四年の実務経験を終え、土佐高校在校時代から夢みた念願の海外留学とあって、この一年間で人生を変えてみせる、とばかりの気合で渡米をしたものの、アパート探しや食料調達等、生活面でさえ勝手の違うことが多く、渡米直後は失望することがばかりでしたが、四か月が経過し、こちらの暮らしにもようやく慣れてまいりました。

授業では、ただでさえ難解な法律を英語で勉強するとハードルは高く、一言では言い尽くせない苦労をしています。



大学校舎前で

こちらでは、百名ほどの大教室で、授業中に教授から突然指名を受け、質問に答えなければいけないため(Cold Callと呼ばれています)、授業中は常に心に緊張感がみなぎっており、授業に臨むのにも予習が欠かせません。

私が、英語もよく聞き取れずに参加したロースクールのクラスで、最初に耳に入った言葉は、教授の発するWhy?でした。なぜ裁判所はこの事件でこうした結論を出したのか。君は賛成なのか反対なのか。そうだとすればそれはなぜか。他の事件で一見異なるかにみえる結論を出している裁判例があるのはなぜか。なぜか、

なぜか、なぜか・・・日本の、良く整理された内容を教授が一方的に読み上げ、学生はそれをノートに書きとめ、暗記するという鴉呑み式教育、実務におけるある種の予定調和に慣らされた身にとって、こうした教授方法は、まさに目からうろこであり、頭の中をもう一度ぐにやぐにやと揉みほぐされる思いがしました。

ロースクールの構成は、アメリカ人が三分の二、実務経験をもった留学生が三分の一の割合です。留学生は、ヨーロッパからアジア、アフリカ、中近東等、実に三十の国々から集まった弁護士や裁判官、検察官、政府関係者等で構成されており、まさに世界のBest & Brightestといった印象を受けます。普段は授業が終わると、皆いそいそと図書館へ翌日の予習に向かう味気ない日々ですが、金曜になると大学近くのBarに集まり、ビールを飲みつつ、それぞれの実務経験、故郷や家族の話をお互いに交わすのが、ほっと息をつける貴重な時間

です。「国際感覚」と言うは易し、その本質は難しいものです。私がこうしたクラスメートとの交流で得た発見は、顔立ちも違えば文化も信仰も異なる人々であっても、人間の喜びや悲しみは基本的には変わらないということです。普段は



ロースクールの友人とステーキハウスにて

いて、新政権はどのような位置づけにあるのか、民主党が行おうとしているのは、郵政改革見直しを中心として社会主義的色合いを一層深めるものではないのか、あるいはセーフティ・ネットの確保を伴う自由主義なのか、国内で強く支持された変革は海外では正確にアピールがされていない、という印象を受けます。バックグラウンドの異なる相手に自分の考えや意見を正確に伝えられること、それが国際感覚の本当の意味かもしれませぬ。

ロースクールの初日に学部長が贈った言葉があります。  
「Yesterday is history,  
Tomorrow is mystery,  
Today is gift.」  
第32代Franklin Rooseveltの妻、Eleanor Rooseveltの言葉(引用)

英語の授業が毎日楽しみで土佐高校に通学していた十年前の自分と現在の自分は延長線にあるということ、これまでお世話になった両親、友人、皆様への感謝とここまで来られた僅かな自負の念、海外で再び勉強に勤しむことができるとの幸運を胸にかみしめ、今日一日一日を励んでまいります。

# 同窓生の皆さんに

平成21年7月吉日

土佐中・高等学校 校長 池上 武雄  
新校舎建築募金委員会 委員長 岡内 紀雄

## 重ねて募金のお願い

雨雲の間からもれてくる陽射しには、夏の厳しさが感じられる季節となってまいりました。同窓の皆さまには、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、皆さまから多大のご支援をいただきました土佐中・高等学校の新校舎建築プロジェクトは順調に工事が進み、おかげさまで6月末にエントランス棟・中学棟が完成し、中学生も新校舎で授業が受けられるようになりました。これもひとえに皆さまのご支援のおかげと関係者一同、心から御礼申し上げます。

工事は順調に進んでおりますが、建築募金の方はまだまだ目標にはほど遠く、本年3月末までの合計で2億3000万円余りと目標額の半分をようやく超えたところです。

期限まであと2年余りを残すとはいえ、このままでは、目標達成が覚束なくなってしまうとの思いから、募金委員会としても、企業・法人様に向けての働きかけを強めるなど、努力はしております。しかし、ご存じのような厳しい経済状況の下で、企業からの募金は非常に困難であり、これまで以上に同窓の皆さまのお力にすからざるを得ないというのが実情でございます。

どうか、母校から先輩方に続く人間性豊かな人物を送り出していただけますよう、皆さまのもう一段のご支援ご協力を衷心よりお願い申し上げます。たびたびのお願いで、ご不快にお思いの向きもあろうかとは存じますが、母校発展のために伏してお願い申し上げます。

### —新校舎募金申込および払込方法—

★四国銀行 潮江支店 普通 0658838  
★高知銀行 南支店 普通 0795769  
払込先 土佐中高等学校新校舎建築募金委員会

※お払込の際の受領書をもって、領収書に代えさせていただきます。

### <お願い>

※銀行ATMをご利用なされる場合、回生・ホーム・住所・氏名(漢字)などメールやFAX等でお知らせ下さい。  
※郵便振込による払込も可能です。

※現金書留による送金や学校窓口での現金による受付も行っております。  
(連絡先) 土佐中・高等学校新校舎建築募金委員会 広報委員長 小村彰 事務局 千頭裕  
電話 088-833-4394 E-mail a.komura@tosa.ed.jp

香宗我部秀雄 (37回生)  
浜田一志 (58回生)



「一村送り切手・本の表紙写真ではありません」

「土佐の村送り切手」2009.8  
上製本B5版352頁 20000円

(株) 鳴美 (なるみ)  
〒169-0073 新宿区百人町2  
・21・8 03-3361-3142

一部の切手収集家を知るに過ぎないが、明治5年に高知県庁が発行し2年半の間、高知県内だけで使われた『村送り切手』というものがある。郵便切手同様、手紙に貼って使ったもので、約10種の切手が知られている。

著者は、土佐高卒業以後、約50年をかけて、この切手や使用例を調査し、約170枚の切手の存在を確認した。著者のライフワークである。この本では、一つ一つの切手や手紙に貼った実例の殆ど総てを図版で示し、解説している。また、公用の荷や手紙を送り届ける制度は、土佐藩草創の時から在った。この制度についても詳記されている。

新刊案内 出版リーダー号外



「部活しながら東大に受かる勉強法」1365円 2009.9  
中経出版

東大野球部スカウト部長 (東大の正式の役職名ではありません) の最新刊。  
武市武 (30回生)



「ある労務屋の軌跡」会社と共にあった500カ月の日記」  
1500円十税  
市場経済研究所

著者の「自分史」である。市場経済研究所は30回生鍋島高明さんの経営する出版社です。鍋島さん自身が多くの相場師の伝記を何冊も出版されています。自分史を出版したいという希望をお持ちの方は是非鍋島高明さんにご相談下さい。

# ★出版レーダー★

大原健士郎 (24回生)  
「とらわれる生き方、あるがままの生き方」  
2415円 星和書店 2009/08

倉橋由美子 (29回生)  
「蛇・愛の陰画」  
1470円 講談社 2009/08

鍋島高明 (30回生)  
「夢の浮橋 改版」  
820円 中公文庫 2009/08

「一攫千金物語―日本相場師群像」1800円  
発行 五台山書房 発売 河出書房新社 2009/11

田島征三 (34回生)  
「どうしてちがふの?」1575円 光村教育図書 2009/08

「ふしぎなたいこ」1350円 フェリシモ出版 2009/08

「あめじよあじよあ」1575円 光村教育図書 2009/06

田島征彦 (34回生)  
「へんなゆめ」1350円 フェリシモ出版 2009/08

尾池和夫 (34回生)  
「変動帯の文化―国立大学法人化の前後に」(京都大学総長メッセージ 2003-2008) 2310円 京都大学学術出版会 2009/11

大橋一章 (36回生)  
「大和路のみ仏たち」1575円 グラフ社 2009/05

野田正彰 (37回生)  
「教師は一度、教師になる 君が代処分を喪ったもの」2100円 太田次郎社エディタス 2009/11

「廣囚の記憶」3360円 みすず書房 2009/06

塩田朝 (40回生)  
「廣囚の記憶」819円 平凡社 2009/06

西村繁男 (40回生)  
「少年リーダム 1巻」540円 新潮社 2009/08

「ありがとつ しょうぼうじょうしや」1344円 ひかりのくに 2009/07

「むしむしたんや」1365円 童心社 2009/06

「くすのはやまのきこね」840円 福音館書店 2009/02

黒鉄ヒロシ (41回生)  
「信長遊の地」1600円 リイド社 2009/10

「信長遊」1600円 リイド社 2009/01

高山宏 (42回生)  
「ランプラントの目」13440円 河出書房新社 2009/11

「かたち三昧」2940円 羽鳥書店 2009/07

宮岡等 (49回生)  
「よくわかるうつ病のすべて―早期発見から治療まで」改訂第2版 6300円 永井書店 2009/06

坂東真砂子 (51回生)  
「天唱歌」735円 朝日新聞出版 2009/11

「桃色浄土」820円 角川書店 2009/10

「黒首の島」830円 講談社 2009/09

「黒首の島」下 760円 講談社 2009/09

森岡正博 (52回生)  
「最後の恋は草食系男子が持つてく」1260円 マカジンハウス 2009/07

門脇護 (53回生) (ペンネーム 門田隆将)  
「康子十九歳 戦渦の日記」1500円 文藝春秋 2009/07

「激突! 裁判員制度―裁判員制度は司法を滅ぼす官僚裁判官が日本を滅ぼす」1300円 ワック 2009/03

青木純雄 (53回生)  
「池田満 監修 青木純雄 平岡憲人 共著」  
「よみがえる日本語―こぼのみなもと」ラシテ」  
3990円 明治書院 2009/05

英保未来 (54回生) (ペンネーム 大森望)  
「狂乱西葛西日記20世紀 Renshi」  
2520円 本の雑誌社 2009/09

「ザ・ストレン」2000円 早川書房 2009/09

「不思議の心と触れ」893円 河出書房新社 2009/08

「超法領域」1155円 東京創元社 2009/06

森岡浩 (55回生)  
「異別名字ランキング事典」  
1680円 東京堂出版 2009/10

「決定版! 名字のロジック」1365円 朝日新聞出版 2009/07

廣瀬裕子 (60回生) (ペンネーム 高遠裕子)  
「インセンティブ 自分と世界をうまく動かす」1955円 日経BP社 2009/10

「大事なことだけ、ちゃんとやれ―ゼロ成長企業を変えた経営の鉄則」1890円 日本経済新聞出版社 2009/02

「」からは雑誌に掲載されています

鍋島高明 (30回生)  
「実録 相場師 霜村昭平(3)考えた末の直感で勝負 天下の近藤紡に勝利」FIC world 9(8) (通号 97) [2009.08]

「実録 相場師 霜村昭平(2)片玉一本で勝負する動や度胸と金と気配り」Futures Japan 9(7) (通号 96) [2009.07]

「実録 相場師 霜村昭平(1)相場を張るために生まれた男12歳で株式欄を読む」Futures Japan 9(6) (通号 95) [2009.06]

「実録 相場師 寺町博(2)乾鯛「寺町相場」で損失200億円か タライの中に鯨を泳がした」Futures Japan 9(5) (通号 94) [2009.05]

「実録 相場師 寺町博(1)巨損に負けず相場を愛する男 本業の儲けを投機機に散財」Futures Japan 9(4) (通号 93) [2009.04]

岡村甫 (32回生)  
「第16回学術講演会報告 都市住宅学会・第16回学術講演会・公開市民フォーラム 地方大学の再生とまちづくり―地域が経営する大学を目指して」都市住宅学 64 [2009. Win.]

尾池和夫 (34回生)  
「地震を知って震災に備えろ」学十六次報 2009(3) (通号 876) [2009.05]

大橋一章 (36回生)  
「聖徳太子と法隆寺」駒沢大学仏教文学研究 (12) [2009.03]

野田正彰 (37回生)  
「食卓と心を豊かにする伊賀の土鍋のぬくもり」潮 (通号 809) [2009.11]

「戦争被害者の極限体験によりそう」(特集 戦争体験と国史) 前編 (通号 848) [2009.10]

塩田朝 (40回生)  
「転落から七年。下積みから這上がった「宇宙人」 幸相・鳩山由紀夫の実像 (特集 政府改造)」中央公論 124(11) (通号 1507) [2009.11]

「霞が関情報 徹底公開」が歴史的転換の道を開く果たして「新政治システム三本柱」を確立できるか (特集 民主党政権への期待と不安) ニューリーダー 22(10) (通号 264) [2009.10]

「COE政治 船頭多し新内閣 鳩山流に変えられるか」週刊東洋経済 (6223) [2009.9.26]

森崎初男 (41回生)  
「カイと乗分布、t分布およびF分布の歪度と尖度のまっの求め方」経済系 239 [2009.04]

宮岡等 (49回生)  
「精神科診療とES (特集 機能性身体症候群(SS))―美態と診療のストラテジー」―「診療現場での機能性身体症状の美態」日本臨床 67(9) (通号 962) [2009.09]

「うつ病が治る」とはどんなうつ病か (うつ病は治るか)―(うつ病の広がり) リンク科学 (通号 146) [2009.07]

坂東真砂子 (51回生)  
「異界への町」図書 (722) [2009.04]

森岡正博 (52回生)  
「対談 勝間和代とのあの人をまねたい(第6回)男と女 森岡正博 折原千香」Acta 22(31) (通号 1173) [2009.07]

門脇護 (53回生) (ペンネーム 門田隆将)  
「日本初「裁判員裁判」弁護人の告白」文芸春秋 87(12) [2009.10]

「スポーツドキュメント「あの一瞬」(第6回)史上最強ランナー「瀬古利彦」はなぜ敗れたのか」新潮45 28(10) (通号 330) [2009.10]

英保未来 (54回生) (ペンネーム 大森望)  
「大森望の新SF観光局(第6回)伊藤計劃氏の「J」」SFマガジン 50(8) (通号 640) [2009.07]

「神銃(ゴッド・ガン)(ハリントン・J・ペイリー追憶特集)」SFマガジン 50(6) (通号 637) [2009.05]

「特集解説 (ハリントン・J・ペイリー追憶特集)」SFマガジン 50(6) (通号 637) [2009.05]

大森望の新SF観光局(第5回)大学SF研会会報 SFマガジン 50(6) (通号 637) [2009.05]